

本町行人岳 (501m) と行人様祭礼

ルート図 (1/2.5 万地形図)



行人岳 (①行人堂・②地籍点・③行人岳)



馬頭観音, ギンヨウアカシア (左), 行人堂 (奥)



マムシグサ



H27.3.22(日) 2名参加 (天草山岳会)

1号車-IM

2号車-NM

■コースタイム 3/22 快晴黄砂 8:00 本町公民館 2名出発, 8:15 馬頭観音、ギンヨウアカシアの花, 8:45 車道から登山道, 8:51 車道, 9:13 コンクリート舗装道, 9:21 行者の飛石, 9:22 行人堂, 9:30 出発, 9:54 地籍図根三角点, 10:13 行人岳, 10:43 行人堂・祭礼参加, 11:40 下山開始, 12:05 馬頭観音, 12:36 本町公民館解散

■本町福岡地区で行人様の祭礼が行なわれるので、この機会に行人岳山頂まで登り祭礼に参加する計画を立て IMさんと出かけた。

前日 21日はお大師様の祭で天気は雨後曇、当日 22日は快晴で暖かい。鈴木神社下の本町公民館に集合し車を置いて歩き始めた。

県道 44号を福岡方面に進むと鈴木神社の北側の峠、道路の左側に「南無観世音菩薩 寛政六卯正月□日 願主木村万作」と彫られた石碑があった。寛政 6年(1794)は寅年の間違い。隣に「□観世音 天保十年巳亥十□月吉□」と彫られた石碑が立つ、天保 10年(1839)。

峠を進むと正面に福岡地区と行人岳(行人堂)が見えてくる。福岡橋を渡り右側にお堂があり、三差路を左折して県道を離れる。すぐに右折して緩い上り坂を登る。

やがて右側に石の祠と「馬頭観世音」と彫られた小さな石碑がある。(写真)中央に黄色い花を付けた木、奥に行人岳(行人堂)が見える。黄色い花を付けた木に近づいて見る。葉はアカシアに似ている。IMさんが「マメ科の植物ですね、調べてみます。」と写真を何枚も写した。夕方 IMさんから「ギンヨウアカシア(オーストラリア原産)のようです。」と連絡を頂いた。

車道を歩き、途中から標識に導かれて登山道に入る。杉檜の植林地の路傍にマムシグサが咲いていた。普段は黄緑色の花を見るがこの花は赤紫色でめずらしい。ナンバンキブシ、イズセンリョウが咲いていた。

行人堂と一本歯下駄



車道に出て、再び登山道を登る。谷状の道に枯枝枯葉が集まり歩きにくい。ほとんど歩かれていない古道だ。コンクリート舗装道に出るが登山道を登る。やがて二つの大岩があり「行者の飛石」の看板が立つ。「行者はこの石より一つ歯の下駄を履いて島原半島の雲仙岳まで飛ばれたという伝説があります」と記されている。

行者の飛石からすぐに行人堂があり、地元の世界役の方々が祭礼の準備をしていた。お堂には行人様の石像があり一本歯の下駄が奉納され、「福岡行忍嶽略縁起」の板碑がある。

広場の右側に「妙法蓮華經一石一字塔」と彫られた五輪塔がある。碑文を解説してみる。

妙法蓮華經一石一字塔
 天保〇年癸巳七月廿八日
 惣願主福岡村中
 世話人 鶴田兼蔵

五重に積まれた石塔の正面に「妙法蓮華經一石一字塔」と彫られ、建立年は癸巳(みずのと・み)から天保4年(1833)と読める。「一字一石塔」の間違いか。

「法華經」はインドで成立しそれを漢字に意識したものが「妙法蓮華經」である。妙法蓮華經は天台宗と日蓮宗に受け継がれている。

行人堂から荒れた山道に入り、尾根に沿って登る。途中で猪の寝どころ「猪床/ししどころ」があった。林道に出て、山道を登り「地籍図根三角点」を通過。古い道を横断し猪のぬた場を通る。そして行人岳四等三角点の山頂に到着、丸い標識は平成16年に建てたもの。

行人堂まで戻り、11時から祭礼に参加した。まず、総勢50名程で「摩訶般若波羅蜜多心經」などが三回唱えられた。その後はお神酒を頂き、各家々から持ち寄ったおにぎりや料理などをお皿いっぱい頂いた。昼頃往路登山道を下山するとギンヨウアカシアのところに出た。

左の地図は天草の山岳修験道の名残(なごり)行人岳などを調べたもので20山ほどある。[参考文献]①濱名志松 天草・靈験の神々 (N)

妙法蓮華經一石一字塔



行人岳山頂(四等三角点横野)



山岳修験道の名残(なごり) 行人岳など

